

## 三田まつり見直しに向けた提言の概要

### 三田まつりの現状

**【目的】** 市民まつりとして、相互の交流と連帯の輪を広げるとともに、「わがまち三田」のふるさと意識の醸成を図る。

**【テーマ】** 「心のかよう、ふるさと三田」

- 【意義】**
- ①市民文化の伝承
  - ②三田への「愛着」と「誇り」を育み、「わがまち三田」へのふるさと意識の醸成
  - ③観光振興やシティセールスなど三田の魅力発信の推進

#### 《参考》 第41回(令和元年度)三田まつり

《日時》 令和元年8月3日(土) 16時～21時

- 《場所》
- ①武庫川(19時45分～20時30分) 花火大会(2,500発)など
  - ②郷の音ホール(16時～) ステージイベントなど
  - ③郷の音ホール駐車場(16時～) おまつり広場マーケットなど
  - ④市役所 風の広場イベント、6階展望台開放など
  - ⑤中心市街地商店街 各商店街によるにぎわいイベント

《観客》 約75,000人

#### 【収支状況】

**【収入】** (金額単位：千円)

|            | H30    | R1(A)  | 差引額    |
|------------|--------|--------|--------|
| 補助金        | 3,600  | 7,000  | 3,400  |
| 広告等協賛金     | 6,261  | 6,337  | 76     |
| 募金         | 1,092  | 2,103  | 1,011  |
| マーケット収入    | 25     | 38     | 13     |
| 雑入         | 0      | 0      | 0      |
| 花火関連準備基金繰入 | 5,998  | 0      | ▲5,998 |
| 前年度繰越金     | 300    | 1,238  | 938    |
| 合計         | 17,276 | 16,716 | ▲560   |

**【支出】** (金額単位：千円)

|        | H30    | R1(B)  | 差引額   |
|--------|--------|--------|-------|
| 総務費    | 1,545  | 1,557  | 12    |
| 広告宣伝費  | 423    | 438    | 15    |
| 警備費    | 6,262  | 7,342  | 1,080 |
| 会場等設営費 | 3,081  | 2,720  | ▲361  |
| イベント費  | 227    | 63     | ▲164  |
| 花火費    | 4,500  | 4,075  | ▲425  |
| 予備費    | 0      | 0      | 0     |
| 合計     | 16,038 | 16,195 | 157   |

(A)-(B)=521千円 ⇒ 翌年度繰越金

### 企画検討会議委員名簿

(50音順・敬称略・◎座長)

|        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 石出 正子  | 大西 宏昭 | 古家 良和  |
| 杉原 健吾  | 須田 聡子 | ◎西田 和明 |
| 服部 あかね | 諸富 稜  | 山内 直也  |
| 油谷 章二  |       |        |

### 三田まつりを取り巻く諸課題と見直しに向けた企画や考え方

#### 【課題①：財源確保策】

| ポイント   | 企画や考え方  |
|--|---|
| ①花火の安全対策に係る警備費の増嵩<br>②持続可能な財政運営に向けた安定的な収入の確保 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の補助金に依存しない安定的な収入を継続的に確保する必要がある。</li> <li>・他の自治体で開催される花火大会に倣い、今後の方向性としては、支出の削減には限界があることから、逆に支出を増やしたうえで収益を上げる視点のもとで考える必要がある。</li> <li>・こうした考えのもと、今の時代に即した三田まつりとなるよう、<b>現行の協賛金や募金に加え、今後の財源確保策として次の各点を提案したい。</b></li> <li>①<b>広告収入</b> 三田まつりの①開催前、②開催当日、③開催後、の3段階に分けて募る。</li> <li>②<b>出店料(マーケット収入)</b> プロと市民活動団体とは出店エリアを分けるなど、参加しやすい配慮を行う。</li> <li>③<b>アルコール・ソフトドリンクの独占販売</b></li> <li>④<b>ステージイベントの出演料(市民団体)及びチケット収入(プロのミュージシャンの公演)</b></li> <li>⑤<b>花火有料席</b> ドリンクサービスなど付加価値を付ける。</li> <li>⑥<b>公式グッズ販売(文具、Tシャツなど)</b></li> <li>⑦<b>協賛金</b> Youtube配信等を通じ、インターネットを活用して募集するなど、新たな情報発信の手法と合わせて検討されたい。</li> <li>⑧<b>クラウドファンディング(花火の応援購入等)</b> も今の時代に即した有用な財源確保策であり、積極的に導入すべきである。</li> </ul> |

#### 【課題②：実施内容】

| ポイント  | 企画や考え方   |
|---|--|
| ①花火に特化したまつり内容<br>②ウィズコロナ、アフターコロナの観点に立ち、新たな生活様式のもとで観光資源としての活用を検討 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・三田まつりの催し内容としては、三田まつりの意義や目的に即した催しである現行の①<b>花火</b>、②<b>総踊り(盆踊り)</b>、③<b>市民団体によるステージイベントについて見直すこと</b>と合わせ、現行の<b>出店ブースを拡充させたフードフェスティバルの実施を提案したい。</b></li> </ul> <p style="text-align: center;">《フードフェスティバル》</p> <p>三田の特色である「食」を活かした観光資源として市内外からの来場者による賑わいを創出するものであり、<b>他団体の企画イベントとの連携や秋に開催される既存イベントと統合して一体的に実施することを検討</b>してはどうか。さらに、郷の音ホール付近のみならず、三田駅前を含め、点としてではなく、面的な賑わい創出を図ることで一層の盛り上がりが見込めるのではないかと考える。</p> <p>⇒ <b>イベントのジョイント開催によるそれぞれが連携・協力し合う形は、経費削減と合わせ、観光資源としての賑わい創出や市の魅力発信、集客アップによる経済効果の拡大を図ることができるもの</b>と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策等を考慮しても、<b>開催時期の変更は選択肢の一つ</b>であると考えている。</li> </ul> |

#### 【課題③：実施体制】

| ポイント  | 企画や考え方   |
|---|--|
| ①実行委員会組織の機動性の欠如<br>②実行委員長の職務執行者を含めた実行委員会体制の見直し・強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年12月に実施される<b>サンタ×三田プロジェクトの実行委員会組織を参考</b>として、市民、ボランティア、団体、事業者など様々な客体の関わりを大切に組織の輪を拡大させることを提案したい。</li> <li>・持続可能な組織運営を行うためには、これまでのように市が主導で進めていくのではなく、<b>市はあくまでも全体の調整を担うことに重きを置き、市民が主導で実施することが望ましい</b>と考える。</li> <li>・<b>企画検討会議の委員は、この提言の実現に向け、引き続き新たな実行委員会組織に参画し、あるいは実行委員会組織に参画しないまでも何らかの形で協力したい</b>と考えている。</li> </ul> |

#### 【付帯企画(令和3年度の三田まつり)】

- ・①新型コロナウイルス感染症の動向等を勘案する必要があること、②夏に東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、**この提言を具現化した令和4年度の本格実施に向け、その機運を高めるとともに、それに繋がるようなイベントを試行的に実施することを提案**したい。
- ・**新たな試みの成果を検証するとともに、市民をはじめとする参加者の反応等を見据え**たうえで、今の時代に即したより良い形での三田まつりの開催を望む。

- 《具体例》
- 夏** 市役所風の広場で昔ながらの盆踊りを、踊りの演習はもとより、三田音頭の成り立ちや浴衣の着付けを合わせて実施する。  
⇒世代間交流による伝統文化の伝承と普及を図る。
  - 秋** 郷の音ホールを中心にフードフェスティバルを、秋に開催される既存イベントと統合し、郷の音ホール付近のみならず三田駅前を含め一体的に実施する。これらの催しに花火(打上場所等の変更や花火映像の投影など、財源確保の担保に加え、三密回避の観点も考慮し、最も適切な方法を選択し実施)を組み合わせる。  
⇒経費削減と合わせ、観光資源としての賑わい創出や市の魅力発信、集客アップによる経済効果の拡大を図る取り組みにチャレンジする。